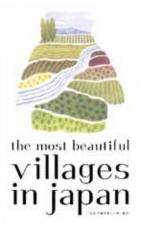


第46号

平成25年12月定例会(第6回)

議会だより





●議長あいさつ								
●県に要望申し								
●平成24年度								
●特別会計・企	業会計決	算審	查•	• • •	• •	• • •	• P6~P	7
●一般質問・・								
●平成25年度								
●行政調査· •		• •	• •	• • •	• • •		• • • P1	3
●審議結果、議	会の動き	• •	• •	• • •	• •		• • • P1	4
●所管事務調査	• • • •	• •	• •	• • •	• • •		• • • P1	5
●農業担い手紹	介、編集	後記	• •	• • •	• •		•••P1	6

■発 行/高原町議会

■編集/議会だより編集委員会

●889-4492 宮崎県西諸県郡高原町大字西麓899番地 ☎(0984)42-5138

■発行日 平成26年2月1日



議長あいさつ 高原町議会議 前 原 長 淳

は道州制問題に対し、反 々な課題に積極的に取り の要望活動を行うなど様 送付するとともに、県へ ございます。本年もよろ 対決議や国への意見書を た取組や、TPPあるい 議会基本条例制定に向け しくお願い致します。 明けましておめでとう 昨年の高原町議会では



その中の一つに少子化問題があります。 高原町には他にも色々な課題が山積していますが、

られます。 も早く、大胆で思い切った施策を実行することが求め 若者を増やし、本町に活気をもたらすためには一刻

まいります。 かつ是非はしっかりと見極めながら、 の期待に添える議会をめざして一丸となって努力して 我々町議会としても何が出来るのか、真剣に議論し、 更に町民の皆様

します。 今後とも皆様のご理解とご指導をよろしくお願い致

宮崎県に5項目の要望 河野県知事に申し入れ

高原町議会は昨年12月4日に本町の緊急かつ切実な要望5項目を河野県知事に申し入れました。なお、これには、丸山県議会副議長も同席しました。

【要望5項目】

- ①広原小付近の町道交差点の県道西麓小林線の道路整備。
- ②県道高千穂峰狭野線の道路改良。
- ③宮崎フリーウェイ工業団地の活用。
- ④九州自然道(御池周回コース)の崩落箇所の早期復旧整備。
- ⑤県道有水高原線の歩道設置と2車線改良の早期実現。



▲知事へ要望



▲丸山副議長へ要望



▲環境森林部長へ要望



▲商工観光労働部長へ要望



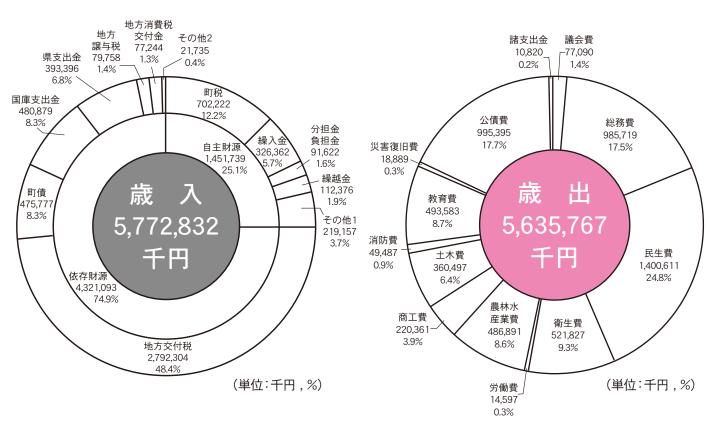
▲県土整備部長へ要望

12月 定例会

平成25年12月定例会は12月11日から16日までの6日間の会期で開かれました。今回の定例会は閉会中の審査となっていました平成24年度一般会計歳入歳出決算認定、特別会計決算認定、企業会計決算認定の計10件と平成25年度補正予算3件、人事案件3件、条例改正4件、その他2件の審議を行い、平成24年度一般会計歳入歳出決算認定と同国民健康保険特別会計歳入歳出決算認定については不認定となりました。

平成 24 年度一般会計決算歳出額

56億35,767千円





●主要指数

年度区分	平成22年度	平成23年度	平成24年度
財政力指数	0.239	0.227	0.216
経常収支比率(%)	9 0.0 %	9 0.8 %	9 2.3 %
公 債 比 率(%)	1 4.4 %	1 3.7 %	1 3.2 %
実質収支比率(%)	1 5.4 %	1 4.1 %	1 3.2 %

- ・財政力指数は、1に近いほど財政力が強い。
- ・経常収支比率は、75%を超えないことが望ましい。
- ・公債比率は、10%を越さない程度が望ましい。
- ・実質公債比率は18%以上になると新たな起債には県の許可が必要となる。

般会計予算・決算常任委員会審査報告

平成24年度高原町一般会計歳入歳出決算認定・・・不認定

歳入総額は57億7,283万2,494円、前年度と比較し、5億2,381万 1,415円の8.3%の減、歳出総額の56億3,576万6,632円、前年度と 比較し、4億9,850万911円、8.1%の減となっています。

翌年度へ繰り越すべき財源は、繰越明許費繰越額3.881万円、実質収支額 9,825万6,000円となっています。このうち、5,000万円を基金に積み 立てたものであります。

厳しい財政状況の中、全職員が行財政改革を真摯に受け止め、合理化や経費 節税に努力されており、予算執行については、住民福祉の向上、産業の振興、 教育・生活環境の整備等が図られているが、一部当初予算に計上しながら執行 されていない事業がありました。

(委員会の意見)

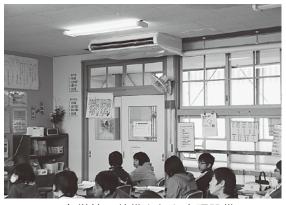
これまで多くの町民に利活用されてきた、ふれあいカレンダーが、予算計上 されていたにもかかわらず、執行されていない。

今回の案件はカレンダーの作成をしないと判断した根拠が、一部の聞き取り 調査のみで終わり、充分な論議がされていない。また、その後の適正な事務処 理もされていない。

予算はその事業の目的と、事業効果、また、住民サービスへの影響について、 議会において慎重審議され、議決されたものである。計画的、効率的な執行を 図り、財源の有効活用に努めるよう要望する。



▲ふれあいカレンダー



▲各学校に整備された空調設備

特別会計・企業会計決算審査報告

○総務経済常任委員会

*住宅新築資金等貸付事業特別会計

歳入186万7,055円、歳出169万6,000円、差し引き17万1,055 円の決算である。債権の年度末残高は3,668万3,681円となっている。

(委員会の意見)

貸付金の回収事務は、今後も債務者や保証人の呼び出し、戸別訪問、催告等を 徹底し、償還に誠意のない者については、法的措置等も念頭においた対応を望む。

*農業集落排水事業特別会計

歳入2,566万2,047円、歳出2,503万7,254円、差し引き62万 4,793円の黒字決算である。

歳入は使用料505万1,520円、一般会計からの繰越金1,548万2,717円、 繰越金110万7,810円である。

歳出は農林水産業費955万4,534円、公債費1,548万2,720円となっ ている。今年度は2戸が加入し、加入率は69.5%である。未加入者の理解と協 力を求め、加入促進に努めてほしい。

*公共用地取得事業特別会計

歳入は628万2,572円、歳出628万2,572円で差し引き0円である。 歳入は一般会計からの繰入金628万1,623円、繰越金949円である。歳出 は公債費628万2,572円となっている。

本特別会計は高原町土地開発公社が所有する総合運動公園用地を計画的に買い 戻していくために、平成14年度に設置されたが、平成24年度をもって廃止さ れたものである。

*水道事業

給水人口は10,088人、給水件数4,508 件、年間配水量160万4,142㎡、有収水量 率76.9%となっている。

営業収益は1億7,300万1,989円、営業 費用は1億4,420万941円で営業利益は 2,880万1,048円となっている。

*工業用水道事業

用水の供給がないため収益的収支はない。

資本的収入は226万8,467円、資本的支出は建設改良費87万4,811円 と企業債償還金139万3,131円となっている。



▲上水道配水池 (水源地)

特別会計・企業会計決算審査報告

○文教厚生常任委員会

*国民健康保険特別会計・・・不認定

歳入17億3,815万8,536円、歳 出16億8,676万7,337円、差し引 き5.139万1.199円の黒字決算であ る。

平成24年度の加入状況は年平均被保 険者数で3,539人で世帯数は2,075



▲特定健診を受診して! 高原保険係長

世帯である。保険税滞納額は前年度比4.8%減の8,057万2,717円である。

(委員会の意見)

一般会計と共に計上されていた、ふれあいカレンダーの予算が執行されていな い。予算はその事業の目的、住民自治に果たす役割、効果について議会において 審議され議決されているにもかかわらず、今回の案件は執行されていない旨の根 拠が明確でなく、理解されるものではない。

また、一連の事務対応も適格性を欠いている。

今後においては、予算編成、議会の議決、予算の執行の流れを重視し、適正な 予算の執行に努めるよう要望する。

*介護保険事業特別会計

〔保険事業勘定〕

歳入10億4,424万8,903円、歳出10億792万5,548円、差し引 き3.632万3.355円の黒字決算である。

平成25年3月31日現在の被保険者数は3,466人で介護認定者数は554 人である。

〔介護サービス勘定〕

歳入343万2,369円、歳出280万1,784円で差し引き63万585円 の黒字決算である。

*後期高齢者医療特別会計

歳入2億9,864万5,774円、歳出2億9,565万2,545円で差し引き 299万3,229円の黒字決算である。

平成25年3月31日現在の被保険者数は2.182人である。

*病院事業

当年度の診療体制は、常勤医師3人、他職員48人の計51人である。

入院患者数は年延べ人数で1万6,421人、外来患者数は年延べ人数で4万 8.702人となっている。

入院収益は前年度比4.2%増の4億1,975万5,222円、外来収益は前年度 比3.3%減の3億346万4,228円である。

(委員会の意見)

改革プランは、平成25年度が最終年度であるが目標達成はかなり厳しい状況 にある。更なる経営の効率化、健全化に努めらえるよう要望する。

町民の心に残る 唄の復活継承を



温谷文雄議員

時の基礎となる石を固め 難しくなる。高原町民の われていない。 が、時代の変遷で今は 心に残る唄として復活継 る時のドンジ節があった うあげ)の唄、家を新築 文化を絶やすと復活が 町では現在、 御

が出来る方を探し保存-い。早急に唄を歌うこと の唄は保全ができていな で発表したらいいと考え つつ、郷土芸能の祭り等 迎の唄、雑掌揚げ

○御前迎の唄等の復活を ○高千穂の峰の登山口に

式を祝う御 高原町には、

(ごぜむけ) の唄や祝宴 前

高原町 穂河原からの登山客も多 所のある鹿児島県の高千 いが、近年はトイレ休憩 側からの利用が多

トイレ休憩所設置を 登山客の多くは 高千穂の峰に登る

での雑掌揚げ(ざっしょ

に進めていく。 からも必要であり、 光PRを図る意味

くなっている。 高原町からの登山

トイレ休憩所の設置を。 登山を活用した観



▲高千穂峰 天孫降臨コース登山口

保険の要支援 Fが心配される

○介護保険について 昇議員 問 社会保障

中村

要支援者の通所 介護と訪問介護 介護保険部会は、

移すとしている は市町村事業に

又 ビスの低下が心配される。 が、 も出てくるのではないか。 が、行き場を失う高齢者 入居者を原則要介護3以 上に限定するとしている 特養ホームへの新規 高齢者が受けるサー

又、本町の要介護1・2 々が入所できなくなる。 の待機者が12名。この方 くなることが予想される。 けられずに、介護度が重 要支援者が十分な 介護サービスが受

審議会の る。 について国に要望してい

○防災対策

どのようにすすめるのか。 物については(耐震化) 5月以前に建築された建 確保するために昭和56年 問 避難所の安全性を 避難所は41ヶ所。

今後検討する。 度で建築し、他の施設は ち小塚公民館は平成26年 昭和56年以前の施 設が10ヶ所で、 う

〇少子化対策

問

の智頭町と岡山

県

えは。 手狭になっている。 500戸を超え行事 所 老朽化し、 問 لے 53年に建築、 並木児童館は昭和 ての 世 帯 改築 集会 数 \mathcal{O} 今は でも 老 も

全国町村大会で受け皿等

答 区長さんを含めお 伺いし、今後検討

する必要がある。



行政調査で鳥取県 を。 にしてほしい声が上がっ から2クラスを3クラス るために40人学級の解消 先生が子どもと向き合え ている。えびの市では30 人学級を来年度から行う。

討課題 学では加配教員を活用し、 は特別支援員の活用が検 3学級にしている。 基準は満たしている。 で、40人以下の学級 ラスが1学級38名 高原中2年の2ク 編 数 成

奈義町は高校卒業まで医

本町でも助成の拡大を。

平成26年度予算で

十分検討したい。

療費助成を行っている。

頭町では中学卒業まで、

の奈義町を視察した。

智

○教育行政

級となっており、保護者 校では、2学年が40人学 実施している。高原中学 問 宮崎県では、 1年で35人学級を 中学

平成 26 年度の 予算について



松元茂春議員

時期に当たり、 画 で第5次総合計 が厳しくなる中 般財源の確保 過疎地域自

どの事業を最重要、 軸とした予算編成を考え た財源を有効活用するた ているのか。 先と位置づけどの事業を めに予算編成に当たり、 立促進計画で事業計画 示されているが、限られ 最優 が

のように考えているか。 などの方針についてはど また、今後の新規事業

念すべき節目の年を迎え 平成26年度は、 制施行80周年 \dot{O} 町

んで行く。

新たな事業としては、

念事業を最重要

先人の築かれた我がふ とより、 新燃岳噴火災害対策はも

南海トラフ巨大

○重点施策は

る。

町制施行80周年記念事業、

平成26年

度の予算

要、 観光振興事業の推進を図 商工業振興事業の推進 ある農業振興をはじめ ける事業は、基幹産業で 展に向け情熱と誠意を持 って行く。 るさと高原のさらなる発 った予算編成に取り組む。 重点施策における最重 最優先として位置づ

範囲 ないか、定住対策本部 住して来やすいような住 検討中であり財源の許 宅施策、住宅建設に対し 育て支援を含め、定住移 て重点化した予算を組め また、定住化対策は子 |の中で事業に取り組

> 果たす役割と責任を明 事業についても、 () 災対策事業や水田農業経 にした上で町民サービス 合体育館建設)の実現に 動公園整備基本計画 営確立対策事業、 地震などに備えた総合防 の向上を図るための事業 画に基づく分野別施策の 向け取り組みを強化した に取り組む。 さらに、第5次総合計 、総合運 行政 (総

は。 問 町制 町制施行80周年記 念事業の取り組み 施 行 80 周 年記

> 最優先の課題の一つとし 念式典を開催する。 考に10月5日 種事業を展開したい。 を80周年の年と捉え、 月から平成27年3月まで て位置づけ、平成26年 また、過去の事例を参 に記

◀子育て支援センタ



農業政策

○農水省の新たな水田政 策について 問

平成25年

補助金の減額、二つ目に

飼料用米等への支援の拡

11 月 26 日

勇議員

発表の

「農水省

う評価されているか。 どのように受け止め、 森山 政策」を町長は の新たな「水田 策について」こ の新たな水田政 تلے

る。 水田のフル活用を図って 戦略作物の本格化を進め、 米をはじめ麦や大豆など に活用しながら、飼料用 いくべきと受け止めてい 水田活用の直接支 払い交付金を有効

払交付金、 は、 新たな米政策について 一つ目に米の直接支 いわゆる減反

> 昨年 と 高 7 は、 支払交付金について 見込まれる。 2、400万円の減少が 主なものと考えている。 充、三つ目に日本型直接 支払い制度の創設などが これらのうち米の直接 500円に削減され 現行の半額となる 原町 度の実績から見る 全体 では 約

とも連携して地域の特色 だ明確になっていない 県に対しては、 影響を十分に把握するこ や支払い制度の詳細がま とが困難な状況である。 いずれにしても、 新規需要米の交付単価 現段階では町内へ 関係団体 国や \mathcal{O}

> を十分に反映し、農業者 えている。 にとって生産意欲が向上 て要望していきたいと考 ける制度の構築等につい し将来的な経営展望が描 て、あらゆる機会を通じ

えられるか。 この政策はTPP と関連があると考

をする。 り められていくものと推察 行われるものとされてお 要に見合った米を生産す 断や販売戦略に基づき需 業化を見据え、生産者や ず、新しい水田政策が進 団体等の主体的な経営判 る構造改革の一環として TPP交渉に関わら 後の農業の成長産 この政策は、 10 年



▲稲刈り風景

平成25年度一般会計補正予算(第4号)

3,204万4千円(追加) 歳入歳出 53億887万7_{千円} 総額

【主なもの】

*元高	原高村	交校	長伯	宅	購	入	事	業	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	1,	, 5	5	4	千円
*障害	者介記	蒦給	付•	訓	練	等	給	付	費	•	•	•	•	•	•	•	•	•	1	7	, 7	9	2	千円
*未熟	児養育	育医	療事	業	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	2	, 8	8	2	千円
*市町	村地均	或自	殺太	力策	緊	急	強	化	事	業	•	•	•	•	•	•	•	•	•	1	, 4	0	4	千円
* 次年	度力し	ノン	ダー	-作	成	費	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	1,	, 7	0	0	千円
*浄化	槽設置	置整	備事	業	補	助	金	(6	基	分)	•	•	•	•	•	•	•	2	, 2	3	8	千円
*就農	給付金	全事	業補	勛	金	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	1,	, 5	0	0	千円
*宮崎	フリー	ーウ	エイ	, Т	業	团;	地	企	業	<u>\(\frac{1}{12} \) \(\frac{1}{12} \) \(\frac{1}{12} \)</u>	地	促	進	補	助	金	(3	社)				
													•	•	•	•	•	•	•	2	, 7	2	6	千円
*町観	光協会	会補	助金	<u>}</u> (日	本	発	祥	地	ま	つ	n	他)	•	•	•	•	•	1,	, 2	4	5	千円
*地域	の芸術	f 文	化環	環境	づ	<	り	支	援	事	業													
	(み)	き	コー	-ラ	ス	結	成	2	0	周	年	事	業)	•	•	•	•	•	•	1	0	0	千円



委員の選任

固定資産評価審査委員 増田 賢一氏 (再任)

公平委員会委員 山崎勇氏 (再任)

公平委員会委員 前原延幸氏 (再任)

行政調査報告

総務経済常任委員会【定住化対策について】

·調查日 平成25年11月21日 ·調查地 鳥取県智頭町、岡山県奈義町

○智頭町(ちづ)

②人 7,718人

◎歳 入 6,157,949 千円 23年度普通

5,839,756千円 会計決算額 ◎歳 出

◎面 積 【調査内容】

- ・町づくりについて(村おこし運動、百人委員会、移住定住支援等について)
- ・少子化対策(子育て支援策)について

2 2 4.6 1 km^d

○奈義町(なぎ)

②人 6.085人

◎歳 入 4,3 9 2,8 9 9 千円 23年度普通

◎面 積 6 9.5 4 km^d

3,883,549千円 会計決算額 ◎歳 出

【調査内容】

・定住化対策について・住民参加の町づくりについて

・「子育て応援宣言のまち」について・農業振興策(有機農法等への取り組み)について

【総括】

高原町では、平成24年度から「1万人の笑顔あふ れるたかはる復活創造事業」を創設し、人口1万人へ の復活をめざして定住対策に取り組んでいる中で、定 住対策等に積極的に取り組まれ、成果をあげている2 町を研修した。



文教厚生常任委員会 【健康づくりについて】

- ·調査日 平成25年10月28日~29日 ·調査地 長野県飯島町、木曽町
- ○健康づくり推進に向けた取り組みについて

飯島町、木曽町の両町とも国・県の健康づくりの基本方針に基づき、健康に関する諸計画が 策定されており、健康づくり事業の推進に当たっては、医師会や関係する諸団体をはじめ、各 地域に配置されている健康推進員との連携の基に、町民と一体となった健康づくり事業が進め られている。

又、保健指導についてもレセプトの分析によるデータや特定健診の結果等を基にきめ細かな 指導が行われており、一人当たりの医療費の抑制にも繋がっている。

飯島町においては、人工透析者の原因疾患を分析し、そのデータを基に町の職員が自ら立ち

上げたアジサイの会が主体となって腎臓病予防の教室が開 催されており、新規の透析患者数は少なくなってきている。

本町においても、国の健康増進法の基本事項改正を踏ま え、本年度に町の健康増進計画が策定されることになって いるが、策定に当たっては国・県等が求める数値目標の設 定とそれを実現できる体制の整備が必要と思われる。

*一人当たりの医療費 飯島町 253,803円

木曽町 233,073円 (高原町 364,653円)



▲木曽町

平成25年 第6回定例会議議決内容

平成25年12月16日 月曜日

議案番号	件名	議決結果	①鹿嶋重明	② 森 山 勇	③ 中村 昇	4清水公雄	⑤北迫 泉	茂	⑦宮司 蘍	8温谷文雄	入佐	⑪前原淳一
認定第1号	平成24年度高原町一般会計歳入歳出決算認定について	不認定		•	•	欠	0	\bigcirc		•		-
認定第2号	平成24年度高原町住宅新築資金等貸付事業特別会計歳入歳出決算認定について	認定	0	0		欠	0	\bigcirc	\bigcirc	0	\circ	-
認定第3号	平成24年度高原町農業集落排水事業特別会計歳入歳出決算認定について	認定	0	0	0	欠	0	0	\bigcirc	0	0	-
認定第4号	平成24年度高原町国民健康保険特別会計歳入歳出決算認定について	不認定	•	•	•	欠	0	0	•	•	•	-
認定第5号	平成24年度高原町介護保険事業特別会計歳入歳出決算認定について	認定	0	0	•	欠	0	0	\bigcirc	0	0	-
認定第6号	平成24年度高原町公共用地取得事業特別会計歳入歳出決算認定について	認定	0	0	0	欠	0	0	0	0	0	-
認定第7号	平成24年度高原町後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算認定について	認定	0	0	•	欠	0	0	0	0	0	-
認定第8号	平成24年度高原町水道事業決算認定について	認定	0	0	0	欠	0	0	0	0	0	-
認定第9号	平成24年度高原町病院事業決算認定について	認定	0	0	0	欠	0	0	0	0	0	-
認定第10号	平成24年度高原町工業用水道事業決算認定について	認定	0	0	0	欠	0	0	0	0	0	-
議案第56号	高原町税条例の一部を改正する条例	可決	0	0	0	欠	0	0	0	0	0	-
議案第61号	平成25度高原町一般会計補正予算(第4号)	可決	0	0	0	欠	0	0	0	0	0	-
同意第5号	公平委員会委員の選任について	同意	0	0	0	欠	0	0	0	0	0	-
同意第6号	公平委員会委員の選任について	同意	0	0	0	欠	0	0	0	0	0	\neg
同意第7号	固定資産評価審査委員の選任について	同意	0	0	0	欠	0	0	0	0	0	\neg
議案第55号	財産の交換・譲与・無償貸付け等に関する条例の一部を改正する条例	可決	0	0	0	欠	0	0	0	0	0	\neg
議案第57号	高原町児童プール及び児童遊園の設置並びに管理運営に関する条例の一部を 改正する条例	可決	0	0	0	欠	0	0	0	0	0	$\overline{}$
議案第58号	国民健康保険税条例の一部を改正する条例	可決	0	0	0	欠	0	0	0	0	0	\neg
議案第59号	指定管理者の指定について	可決	0	0	0	欠	0	0	0	0	0	\neg
議案第60号	財産の取得について	可決	0	0	0	欠	0	0	0	0	0	\neg
議案第62号	平成25年度高原町介護保険事業特別会計補正予算(第2号)	可決	0	0	0	欠	0	0	0	0	0	\neg
議案第63号	平成25年度高原町後期高齢者医療特別会計補正予算(第1号)	可決	0	0	0	欠	0	0	0	0	0	\exists

「○」:賛成、「●」:反対、「除」:除斥、「棄」:棄権、「欠」:欠席、議長(前原)は採決に加わらず

議会の動き

12月11日~16日	第6回定例会
1月 5日	成人式
10日	議会だより編集委員会
12日	消防出初め式
15日	議会改革特別委員会
20日	議会だより編集委員会
29日	時局講演会(綾町)
2月 3日	日本発祥の地まつりウオーキングコースごみ拾い
13日	小林高原衛生事業組合議会
13日	霧島美化センター事務組合議会
25日	西諸広域行政事務組合議会

所管事務調査

商工会と意見交換(11月7日)総務経済常任委員会

総務経済常任委員会は高原町商工会における実態を長崎商工会長ほか、副会長、商業部会長、 工業部会長、サービス観光部会長、青年部長、女性部長、顧問、事務局長を交えての意見交換会 を行いました。

現在、会員は256名でここ数年減少気味になっているが、青年部と女性部の活動は旺盛活発 に行われている。また、意見交換の中で、買い物難民対策や合併浄化槽の補助金枠がなくなり建

築工事ができない、高原駅から並木の町道拡幅をやっ てほしいなど10項目からの要望も出されました。

(感想)

今後は、高齢化社会への積極的な対応が重要である と思われる。「買い物難民」は現実的な問題となって おり、購買者のニーズに応えるために、いかに買い物 サービスの提供をするか、また、足の確保が重要であ り、行政と連携して、循環バス等の運行も考慮すべき 大きな問題であると思う。



▲商工会と意見交換

高原中学校など実情を調査 文教厚生常任委員会

文教厚生常任委員会は11月5日、17日と12月19日に町内の複式学級や高原中学校の状 況を把握するため調査を実施しました。

- ○後川内中学校(1・2年複式学級) 1年生 3人、 2年生 5人、 3年生 6人
- ○高原中学校

1年生79人(3学級)、2年生76人(2学級)、3年生83人(3学級) 特別支援学級 4人(2学級)

- ○狭野小学校(2・3年生、4・5年生複式学級) 1年生 7人、 2年生 2人、 3年生 9人 4年生 7人、 5年生 7人、 6年生 5人 特別支援学級 2人(1学級)
- ※ 狭野小・後川内中とも小規模校ながら、人数が少 ないが児童数との比率で授業は濃密で恵まれている。 学力の差はない。丁寧に育てられている。真面目に 育っている。反面、競争心が芽生えないなど報告さ れた。

一方、高原中は1・3年生3クラス。2年生は1 クラス38名で教室の広さに対して窮屈なため机の



▲高原中2年生の教室

大きさを小さくして、机と机の間隔をつくり、先生や生徒が教室の中を移動しやすいように している。また、後川内PTAとの交流会では、6年生の卒業時、勉学と部活を選択するか 否かで、子供がスポーツは高校に行ってからでもできる。中学校では、勉学に励みたいとい うので人数は少ないけど後中を選択した等の話も聞けた。

かんばら!

農業(どれからの))担い手と家族

「父より」 食料の安定確保が出来る経営を 目指してほしい



写真右より 愛叶ちゃん 耕助さん(本人) 法明さん(父) 泰雅ちゃん 美代さん(母)

★松山耕助さん(31歳) 【下後川内地区】 法明さん方 たばこ・園芸野菜 肉用牛繁殖等

耕助さんの目指す目標

複合経営による生産 日本一を目指す

★石山 牧さん (24歳) 【旭台地区】 宗行さん方 石山 酪農・肉用牛繁殖

牧さんの目指す目標

・独立し和牛の生産性 を高めたい

す。

でなかったためでありま

事務処理についても適正

かった。また、

その後

かわらず執行されてい

算計上されていたに

も

れあいカレンダー"

が予

毎年発行してい



写真右より 宗行さん(父) 日毬ちゃん(1才) 牧さん(本人)

定になりました。

の2件が賛成少数で不認

民健康保険特別会計決算

編

世の流れに逆らわず柔軟性のある父より』

経営を期待する

猛

今議会を振り返ってみ

継続審査とし

影

い機会であると思います。 公務員として襟を正す良 「初心、忘るべからず」 茂

うち、

一般会計決算と国

た平成24年度決算10

件